

令和元年度 赤坂中研究推進計画

1. 研究主題

研究主題
根拠と理由を明確にして、自分の考えを自分の言葉で表現できる生徒の育成
研究仮説
課題解決のための効果的な手だてを工夫し、生徒の実態や学習状況、定着状況の3つの見届けを確実に行うとともに、教科で学習した用語を正しく用いて対話活動を工夫して組織することによって、自分のもつ見方や考え方を働かせ、教科の「つけたい力」を身に付けることができ、根拠と理由を明確にして自分の考えを自分の言葉で表現することができる。

2. 主題設定の理由

昨年度「確かな学力を身に付け、根拠と理由を明確にした自分の思いを表現できる生徒の育成」という主題で取り組んだ。根拠と理由を明確にして自分の考えを表現することは、全国学力・学習状況調査の結果や日ごろの授業における生徒の様子から、赤坂中生徒にとって継続している課題であり、本年度も引き続き取り組まなければならないと考える。

大垣市学力向上推進委員会では、「何をすべきなのかという研究内容の次に、どのように進めるかという研究方法を考えるべきである」と指摘された。この点を考慮して、本年度の研究内容を、指導計画の作成、単位時間における指導、学習集団の育成とする。

まず、各教科の「つけたい力」と課題解決の手だてを明確にし、「ねらい」「課題」「評価規準」の3点が一貫している指導計画を作成することは、学習指導上必須なことである。また、昨年度作成した「話し方・聞き方」の表を活用して、学習した用語を正しく用い、それを繰り返すことで言葉を駆使する力をつけることができる。さらに、「赤坂中学校の授業はこれだ!」を活用して、一時間の授業の流れのポイントを押さえ、生徒の実態と学習状況、定着状況という3つの見届けをどのように行うのかを研究することも大切なことである。これらの基盤となる学習集団を育成することは、安心して話し合い、認め合う場をつくることとなり、「主体的・対話的な深い学び」の具現となる。それが授業を活気付け、整然と学習できるようになり、学力の向上につながる。そこで、「赤坂中人権宣言」を意識して、仲間の価値を認め合いながら、生徒が進める「最高の授業づくり」を活用していきたいと考える。

この研究実践を積み重ねていくことが、本校の教育目標である「きびしく あたたかく ねばり強く」を具現させることにもつながる。以上のことから、本年度の研究主題を「根拠と理由を明確にして、自分の考えを自分の言葉で表現できる生徒の育成」とした。

3. 研究の内容

研究内容 1	研究内容 2	研究内容 3
指導計画の作成と改善	単位時間の指導の工夫・改善	高め合う学習集団の育成
(1) つけたい力と課題解決の手だてを明確にした指導計画の作成	(1) 教科で学習した用語を理解して正しく用いる言語能力の育成	(1) 仲間との対話を通して、認め合い、高め合える学習集団の育成
(2) 学習のねらいと課題、評価規準が一貫した指導計画の作成と改善	(2) 生徒の実態や学習状況、定着状況の見届けを工夫した単位時間の充実	(2) 主体的に対話することで学びを深める学習集団の育成